

會務報告

第 27 卷 第 4 號 昭和 16 年 4 月

役員會

第 1 回理事會 (昭. 16. 2. 24.)

出席者: 谷口會長, 吉田, 黒田兩副會長, 青木理事外
4 名, 中村書記長外 3 名,

報 告

1. 西部支部第 2 回役員會議事
2. 北海道支部大會記事
3. 日本工學會評議員會議事

議 事

1. 防空土木委員會委員に次の諸君を依頼すること
とせり。

本部委員

青山秀雄君, 信澤貞治君, 山岡包郎君
安藤新六君, 岩澤忠恭君, 櫻部保君
糸川一一郎君, 淨法寺朝美君, 松田全弘君
太田尾廣治君, 小川徳三君, 瀧尾達也君
大岡禮三君, 松井達夫君, 奥田教朝君
久保讓君, 二宮鏡治君, 杉戸清君
櫻井英記君, 藤森謙一君, 横田周平君
吉岡計之助君, 井上隆根君, 今井四郎君
小宅習吉君, 小牧孟夫君, 齋藤卯之吉君
田中茂美君, 中津海慎二君, 三浦貢君
澤 勝藏君。

事務幹事

廣瀬可一君

横濱特別委員

澤 勝藏君, 菊池潤三君, 末松 榮君
坂本信雄君, 濱本齋暲君, 犬飼孝夫君
廣島特別委員

橋本孝之君, 山口徳兵衛君, 荒川龍雄君
城谷 淳君, 石田昌平君, 中島貞一郎君
楳山常治君, 永田 肇君, 遠藤忠夫君

新潟特別委員

委員長 蒲 亨君

委員 淺見 洋君, 阿部謙夫君, 井越 晋君
飯島一郎君, 神谷儀明君, 古賀清藏君
酒井英男君, 白石鐵藏君, 高橋健吾君
知久清之助君, 廣石一匡君, 藤田宗光君
船越春雄君, 光藤展明君, 南 武男君
三上房吉君, 山田三郎君, 安井與三八君

2. 本會選出の日本工學會理事及評議員を次の通り
變更し同會に通知することとせり。

日本工學會理事 青木 楠 男君

同 評議員 稻葉 權兵衛君

3. 昭和 16 年度會誌編輯委員會委員に次の諸君を
依頼することとせり。

委員長 廣瀬孝六郎君

委員 安藝岐一君, 藤野義男君, 吉田朝次郎君
友永和夫君, 岡 巖一君, 樋浦大三君
以上重任

藤森謙一君, 今井四郎君, 最上武雄君
岡崎三吉君, 近藤健武君 以上新任

4. 財団法人科學動員協會へ會誌其他の刊行物を寄
贈することとせり。

5. 映畫會を 3 月, 講演會を 4 月に開催することと
し, 映畫の選定は文化映畫委員會に, 講演者への交渉
は總務部長に一任することとせり。

6. 5, 6 月頃視察旅行を開催する豫定にて案を作成
し更に協議することとせり。

7. 入退會を別記の通り承認。

第 2 回理事會 (昭. 16. 3. 17.)

出席者: 青木理事外 3 名, 中村書記長外 3 名

報 告

1. 北海道支部第 14 回役員會議事
2. 東北支部防空土木委員會設置
3. 講演及映畫の會を 4 月 17 日産業組合中央會館
に於て開催することとせり。

4. 理事及資産總額變更の登記を了せり。

議 事

1. 昭和 16 年度支部長會議を 4 月 5 日開催する
こととせり。

2. 地方委員 (内務省上木出張所長) 招待午餐會を
開催することとせり。

3. 防空土木委員會委員及事務幹事に次の諸君を依
嘱することとせり。

山本 亨君, 高橋猛雄君, 細田貫一君
穴澤藤作君, 青山泰晴君, 松下尙人君
永瀬 肇君, 小倉宏三君,

事務幹事 倉田 宗章君

4. 北海道支部内規第 1 條第 2 項「商議員 10 名」を
「商議員 11 名」に變更の件を承認することとせり。

5. 會員池邊稻生君より一時納付の會費 120 圓を基
金に編入することとせり。

6. 本會定款の改正に伴ふ滿洲國及關東州在住會員
負擔の昭和 16 年 1 月より定款改正認可執行に至るま
での期間に於ける會費は別紙約定書 (省略) に基き滿
洲土木學會に徴收方を委任することとせり。

7. 滿洲土木學會との提携覚書は別紙(省略)の通りとし速かに契約を締結することとせり。

8. 見學視察旅行を5月開催の豫定にて次回までに具體案を作成協議することとせり。

9. 國防保安法の制定に伴ひ土木學會誌登載記事に就ては相當の注意を拂ふことに申合せたり。

以上の外日本出版文化協會へ入會の件、關東及關西地方水害調査報告印刷の件、大陸研究に關する件、廣島支部設置の件等に就ては次回に協議することとせり。

總 務 部 記 事

第 1 回防空土木第 1, 2 小委員會 (昭. 16. 2. 26.)

出席者: 辰馬委員長, 鈴木小委員長, 春藤幹事長, 沼田(代友永) 委員外 16 名, 廣瀬幹事, 中村書記長, 小野寺庶務主任

協議事項

1. 研究事項細目に就き検討し各分擔を定め調査研究することとせり。

2. 各分擔の研究案を3月15日までに取纏めることとし一應3月7日の會合に立案を持寄り協議することとせり。

第 3 回防空土木第 1, 2 小委員會 (昭. 16. 3. 19.)

出席者: 鈴木小委員長, 岩崎委員外 17 名, 廣瀬(可) 幹事, 廣瀬(綱) 助手, 花井中部支部委員, 小野寺庶務主任

協議事項

1. 各分擔の研究立案に就き擔當委員より説明あり, 決定案は可成速かに取纏め辰馬委員長に提出することとせり。

2. 第2次緊急對策に就ても引續き調査研究を進め立案することとせり。

第 1 回防空土木第 3 小委員會 (昭. 16. 2. 25.)

出席者: 河口主査, 岩崎委員外 7 名

協議事項

1. 調査項目及分擔を決定す。
2. 空襲上の危險地區を想定す。
3. 警視廳御厨技師より帝都の消防態勢に關する説明を聴取す。

第 2 回防空土木第 3 小委員會 (昭. 16. 3. 6.)

出席者: 岩崎委員外 7 名

1. 各分擔事項に就き協議せり。
2. 添付圖面は3萬分の1とすること。
3. 3月15日までに纏めることとせり。

第 1 回防空土木第 4 小委員會 (昭. 16. 2. 27.)

出席者: 春藤小委員長, 町田委員外 3 名

協議事項

1. 研究事項の細目別紙(省略)及分擔を決定せり。

第 2 回防空土木第 4 小委員會 (昭. 16. 3. 10.)

出席者: 春藤小委員長, 穴澤委員外 4 名, 福西, 小長井兩技師

協議事項

1. 二宮, 穴澤, 奥田各擔當委員より夫々調査の進捗に關し説明あり, 之に對し種々審議したる上遅く共3月20日迄に之を整理完了して提出することに申合せり。

第 1 回防空土木第 5 小委員會 (昭. 16. 3. 7.)

出席者: 春藤幹事長, 今井(哲) 小委員長, 高井委員外 8 名

協議事項

1. 研究の順序方法を決定せり。

2. 委員の追加。

松下尙人君を委員に依頼し尙必要に應じ追加することとす。

第 2 回防空土木第 5 小委員會 (昭. 16. 3. 13.)

出席者: 辰馬委員長, 菊池委員外 8 名

協議事項

1. 石塚, 松下, 太田尾各分擔委員より調査狀況及計畫に就て報告ありたり。

2. 本日研究題目を決定協議し現況を次回迄に調査することとせり。

第 3 回防空土木第 5 小委員會 (昭. 16. 3. 19.)

出席者: 菊池委員外 8 名

協議事項

1. 石塚委員より調査事項の報告あり調査結果及對策に就き研究せり。

2. 次回迄に報告書案を石塚, 奥田兩委員に於て起草することとせり。

第 1 回防空土木第 6 小委員會 (昭. 16. 2. 28.)

出席者: 辰馬委員長, 春藤幹事長, 石川小委員長, 櫻井委員外 6 名, 中村書記長, 小野寺庶務主任

協議事項

1. 研究事項細目別紙(省略)に就き検討し各分擔を定め調査研究することとせり。

2. 各分擔を3月15日までに取纏めることとし一應3月7日の會合までに立案を持寄り協議することとせり。

第 2 回防空土木第 6 小委員會 (昭. 16. 3. 7.)

出席者: 石川小委員長, 櫻井委員外 6 名

協議事項

1. 各分擔事項に就き調査の報告あり之を検討せり。

2. 小倉宏三君を委員に追加することとせり。

第 3 回防空土木第 6 部小委員会 (昭. 16. 3. 20.)

出席者: 石川小委員長, 櫻井委員外 6 名

協議事項

1. 小倉委員より調査事項の説明あり, 次回迄に報告書草案を作り協議することとせり。

午餐會 (昭. 16. 3. 13.)

土木學會地方委員 (内務省土木出張所長) 招待。

會 場: 帝國ホテル

出席者: 伊藤百世君外 13 名, 谷口會長, 黒田副會長, 青木常議員外 14 名, 岡野前會長外 5 名, 中村書記長外 3 名。

調 査 部 記 事

コンクリート調査委員会 (第 32 回堰堤コンクリート小委員会) (昭. 16. 2. 20.)

出席者: 内村委員外 7 名

堰堤コンクリート示方書解説に就き打合せり。

コンクリート調査委員会 (第 33 回堰堤コンクリート小委員会) (昭. 16. 3. 18.)

出席者: 沼田委員長, 内山委員外 8 名

解説 第 1 章 第 1, 2 條

第 4 章 第 20, 21, 22, 24, 25 條

に關し原案提出あり, 審議を開始す。

コンクリート調査委員会 (第 10 回一般構造物コンクリート小委員会) (昭. 16. 2. 25.)

出席者: 沼田委員長, 内山委員外 5 名, 磯崎君外 1 名

1. 第 11 章水中コンクリート第 50 條總則より第 54 條養生までを審議。

2. 次回は第 12 章水密を要するコンクリートに就き審議の豫定。

コンクリート調査委員会 (第 11 回一般構造物コンクリート小委員会) (昭. 16. 3. 20.)

出席者: 沼田委員長, 内山委員外 3 名, 芝地君

1. 第 12 章水密コンクリートに關し, 第 55 條より第 58 條迄を審議せり。

水理公式調査委員会 第 1 部會 (河川) (昭. 16. 3. 19.)

出席者: 富永主査, 安藤幹事, 阿部委員外 6 名

各委員分擔の公式を提出し, 本日はその中の渡部委員の堤防の滲瀾及び山内委員の流速公式, 流速分布曲線に就き意見を交換し散會す。

東 北 支 部 記 事

第 16 回役員會 (昭. 16. 3. 6. 7.)

出席者: 金森支部長外, 辰馬防空土木委員会委員長
議 事

1. 昭和 16 年度事業に關する件。

2. 幹事増員に關する件。

3. 土木學會東北支部防空土木委員会設置に關する件。

北 海 道 支 部 記 事

第 14 回役員會 (昭. 16. 2. 23.)

出席者: 吉町前支部長, 鷹部屋商議員外 4 名, 大坪幹事長, 笠谷, 高橋兩幹事, 岡本主事, 辰馬防空土木委員会委員長, 石川委員

議 事

1. 支部内規改正の件。

2. 土木學會北海道支部防空土木委員会設置の件。

防空土木委員会に關する協議會 (昭. 16. 2. 23.)

出席者: 辰馬防空土木委員会委員長, 石川委員, 役員及關係者 47 名

そ の 他 記 事

土木學會誌第 27 卷第 2 號を發行し成規の手續をし會員に配布せり。

入 會 及 轉 格 會 員

(敬稱を略す)

特 別 會 員 (入 會)		
大野組	大 野 直 吉	(3 級)
合資會社大森組	大 森 武 四 郎	"
加藤組	加 藤 岩 吉	"
菅原組	菅 原 正 一	"
田村組	田 村 丑 太 郎	"
高木組	高 木 直 行	"
谷 組	谷 萬 吉	"
鶴間組	鶴 間 禮 藏	"

成島組 土屋巴三男 土屋榮一 竹林多一 (3級)
 三田村組 三田村嘉作 //
 明治鑛業株式會社庶路鑛業所 小堀 巖 松元重男 //

正 會 員 (入 會)

安藤富太郎 荒川龍雄 入川樂藏 小川徳三 大島正一 大堀玄三
 金村鎮夫 金毛利正巳 小島達太郎 齋藤金 清水乙吉 大津光
 神保友雄 鈴木昌二郎 薄健助 多田茂 豐福光 中島貞一
 中村義造 永石内匠 西野俊雄 橋本孝之 八田章 平田寬
 福田吉藏 福永榮二 町本秀樹 山田敬助 吉田均

准 會 員 (入 會)

池川清弘 石原敬正 市ノ瀬常光 稜山尙元 岩井保人 小澤藤正 義喜郎
 尾道正良 門脇順夫 神谷秀雄 川村正三 北田高木 佐高橋村 正清一
 島橋申夫 田邊茂雄 田村盛益 高木旭二 高島部野 中本山口 富作
 高中裕邦 中山澤勝美 水野一弘 福森重 森野新 山本多 傳
 間山敏明 澤俊 高橋武 森重 森野新 山本多 傳
 造田重恭 澤俊 高橋武 森重 森野新 山本多 傳

學 生 會 員 (入 會)

新井利郎 植村陽三 浦山寛 小倉昌三 小澤信夫 加藤久 敬孝
 柿沼克美 榎山健一 竹田正 谷萬吉 辻 治夫 片桐村 孝夫
 中杉博敏 野口朝一 林四郎 福留秀夫 牧田武嘉 田吉 市兵衛
 梶間敏博 川手原研三 河村一夫 小宮伯元 篠山木 吉田 市兵衛
 高橋俊三 安町二 山下源太郎 山本森修 万木 嘉 吉田 市兵衛
 脇田俊三 安町二 山下源太郎 山本森修 万木 嘉 吉田 市兵衛

正 會 員 (轉 格)

犬飼孝夫 倉知良造 眞銅義太郎 小野早苗 志村一雄 水嶋太郎

准 會 員 (轉 格)

今西義男

土 木 學 會 々 員 數 (昭. 16. 2. 24. 現在)

正 會 員	准 會 員	學 生 會 員	特 別 會 員	贊 助 會 員	合 計
3 629	5 105	1 421	121	25	10 301

正 會 員 加藤清治郎君の訃報に接す本會は恭しく哀悼の意を表す

准 會 員 黒川正雄君は昭和 15 年 11 月 3 日南支に於て戦死せられたり本會は靈前に弔詞を呈し恭しく哀悼の意を表したり

准 會 員 竹中敏君、渡部富雄君の訃報に接す本會は恭しく哀悼の意を表す

學生會員 大波儀四郎君の訃報に接す本會は恭しく哀悼の意を表す

會員轉居轉勤の場合の御注意

御轉居又は御轉勤の場合は即時明細に御通知下さる様御願ひ致します。

會費納付に就き御注意

會 費	會員種格	會費年額	第 1 期分 (1 月~6 月)	第 2 期分 (7 月~12 月)
	正 會 員	金 12 圓	金 6 圓	金 6 圓
	准 會 員	金 9 圓	金 4.50 圓	金 4.50 圓
	學生會員	金 6 圓	金 3 圓	金 3 圓

新入會者は月割計算とす。

納 期 第 1 期分：3 月 第 2 期分：9 月

納付方法 振替用紙をお送り致しますから旅行等にて御不在の場合でも拂込に支障なき様御配慮願ひます。

振替貯金の御拂込は振替口座東京 16828 番へ願ひます。

支那方面其他、振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は爲替その他の方法に依り御送金を願ひます。

會費一時納付の御豫定の場合は豫め御通知を願ひます。

會誌未着の場合の御注意

會誌は毎月 1 日に發行し洩れなく配布致しますから、未着の場合には一應本會に御照會願ひます。

發行後相當日數経過しての御申越は時に殘部皆無となり再配布不可能の場合があります。

Demag Neus, Vol. XV, A, No. 3, Sept. 1940.
 Demag Nachrichten, Jahrg. XIV, A, Nr. 3, Sept-
 1940.
 The Journal of the Shanghai Science Institute.

Section 11, Vol. II, III.
 Bulletin of the International Association for
 Bridge & Structural Engineering, No. 7.
 Technika, 22. EVFOLYAM 1941.

既刊會誌殘部内譯

(* は残部有るものを示す)

卷 號	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	金額 (1部) (圓)
6	—	—	*	—	—	*	—	—	—	—	—	—	2.00
7	—	*	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
8	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
9	*	—	*	—	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
10	—	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
11	—	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
12	—	*	*	—	*	—	—	—	—	—	—	—	2.00
13	—	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
14	—	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
15	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
16	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
17	*	*	*	*	*	—	*	*	—	—	*	—	1.00
18	—	—	*	—	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
19	*	*	*	—	*	*	—	*	*	*	—	*	1.00
20	—	—	*	—	—	—	*	—	*	—	*	*	1.00
21	—	—	*	*	—	*	—	*	*	*	*	*	1.00
22	—	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
23	—	*	—	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
24	*	*	*	*	—	—	*	*	*	—	—	—	1.00
25	—	*	—	—	—	—	*	—	*	*	*	*	1.00
26	—	*	—	*	—	—	—	*	—	*	*	*	1.00
27	*	*	*	—	—	—	—	*	—	*	*	*	1.00
第 20 卷第 12 號 (創立 20 周年記念號)													1.50
第 21 卷第 7 號 (會誌索引付)													1.30
大正十二年關東大地震震害調査報告書 (1, 2, 3)													18.00
鐵筋コンクリート標準示方書													1.20
同上 解説													3.50
土木工學論文抄録第一輯													5.00
土木工學論文抄録第二輯													0.50
土木學會誌索引 (第 1 卷第 1 號~第 20 卷第 12 號)													2.50 (會員に限り 1割引)
土木工學用語集													

上記残部會誌其の他の刊行物御希望の場合は所定金額を振替口座東京 16328 番にお拂込み下さい。



故前會長名譽會員 工學博士 古川 阪次郎君

故前會長名譽會員 工學博士 古川阪次郎君略歴

古川阪次郎君は安政五年十一月四日讃岐國仲多度郡瀬居に生る。明治十七年五月工部大學卒業後直に工部省に入り同二十七年八月鐵道技師に任ぜられ、同年十月大本營附及陸軍御用掛を命ぜらる、同二十八年十二月明治二十七、八年戰役の功に依り勳六等に叙せられ單光旭日章を授けらる、同三十六年五月歐米各國へ差遣せられ、同三十七年四月歸朝、同年五月野戰鐵道提理部技長を命ぜられ、同三十九年勳二等旭日重光章を授けらる、同四十一年六月露國皇帝陛下より神聖スタニスラス第一等勳章を贈られ受領及佩用を允許せらる、同年十二月中部鐵道管理局局長を命ぜられ、大正二年五月鐵道院技監に任ぜられ、鐵道院技術部長を命ぜらる、同年六月西班牙國皇帝陛下よりイサベル・ラ・カトリック第一等勳章を贈られ受領及佩用を允許せらる、同年十一月大禮事務官を仰付られ、同年十二月鐵道院副總裁に任ぜらる、同三年一月大禮使參與官を仰付られ、同鐵道部長を命ぜらる、同年二月曩に笹子隧道工事を竣功し又明治三十七、八年事件に際しては野戰鐵道提理部技長として功勞尠らざる旨を以て功績章を授けらる、同年四月南滿洲鐵道株式會社監理官を命ぜられ、同三年二月土木學會常議員に就任せられ、同四年二月工學博士の學位を授けらる、同年四月勳一等に叙せられ瑞寶章を授けらる、同年五月正四位に叙せられ、同五年一月旭日大綬章を授けらる、同年二月土木學會副會長に就任せられ、同六年五月鐵道院顧問を命ぜられ、同年六月特旨を以て從三位に叙せらる、同七年六月錦鷄間祇候を仰付られ、同十一年二月土木學會々長に選ばれ、昭和十六年二月土木學會名譽會員に推舉せらる、又寛城子停車場問題實地調査委員、港灣調査委員、鐵道會議員、經濟調査會委員等を仰付られ、鐵道建設規程改正調査委員長、文官普通試験委員長、鐵道運輸規程改正調査委員長、大禮に関する委員長、大喪に関する委員長、鐵道信號規程改正調査委員長、國際觀光委員、鐵道幹線調査委員等を命ぜらる。

君は官界にありては鐵道院副總裁として、實業界にありては九州鐵道株式會社、金剛山電氣鐵道株式會社等の技師、取締役、會長として吾が國鐵道事業の發達に貢獻する處甚だ多く又土木學會々長各種の會議員、調査委員として終始吾が國土木界のため盡瘁せられ其の功績赫々たり。

昭和十五年十月疾を得て遂に起たず、昭和十六年三月二日澁谷松濤町の邸に薨す、享年八十有四。

會 告

曩に本會誌第 27 卷第 2 號に豫告した通り、第 3 回年次學術講演會が今秋 10 月 31 日より 3 日間福岡市に於て開催のことになつて居りますから多數會員の論文御提出を御願ひ致します。

尙御提出論文の題目を來る 5 月 31 日迄に九州帝國大學土木教室内 土木學會講演委員會宛に御申出である様爲念重ねて御通告致します。

土 木 學 會

會 告

本會は大東亞共榮圈確立の一翼を擔ふ滿洲國に於て目的遂行の完璧を期するため、今般社團法人滿洲土木學會と提携することとし、之に伴ふ定款及規則の改正を本年 2 月 17 日開催の通常總會に於て下記の通り決議し、3 月 26 日主務大臣の認可を得候に就ては、爾今滿洲國及關東州に在住の會員に對し適用せらるることに相成候。

昭和 16 年 3 月 26 日

土木學會々長 谷 口 三 郎

會 員 各 位

土 木 學 會 定 款 及 規 則 (改正)

- 定款第 五 條 本會ハ必要ニ應シ地方ニ支部ヲ設ケ又ハ目的ヲ同シクスル法人ト提携シテ事業ヲ行フコトヲ得
- 同 第 七 條 以下及規則第一條以下ノ會員特別員贊助員准員學生員ノ名稱ヲ「正會員特別會員贊助會員准會員學生會員」トス
- 同 第十一條 第二項及第三項トシテ次ノ條文ヲ加フ
正會員ニシテ滿洲國及關東州ニ在住スル者ハ併セテ滿洲土木學會正會員タルモノトス
滿洲土木學會正會員ハ本會正會員トシテ常議員會ノ承認ヲ得タルモノト看做ス
- 同 第十三條 第二項トシテ次ノ條文ヲ加フ
前項ノ會費ヲ納付シ回復スルト雖モ停止期間中ノ權利ハ之ヲ求ムルコトヲ得ス
- 同 第十六條 但書トシテ次ノ條文ヲ加フ
但シ滿洲國及關東州ニ在住スル者ハ前項ノ入會金及會費ヲ免除ス
- 規則第 四 條 特別會員ハ土木ノ事業ニ關係アル自然人ノ團體又ハ法人竝ニ常議員會ニ於テ其資格ヲ認メタルモノニシテ本會ノ目的ヲ贊助スル者トス
- 同 第十條 准會員カ正會員ニ資格ヲ變更セムトスルトキハ入會ノ手續ヲ準用ス
學生會員カ准會員ニ資格ヲ變更セムトスルトキハ學校卒業以前ニ其手續ヲナサヲ要ス
前項ノ手續ヲナサル者ハ學校卒業ノ月ヨリ准會員ニ資格ヲ變更シタルモノト看做ス
- 同 第十五條 會長副會長及常議員ノ選舉ハ本會所定ノ無記名連記式投票用紙ヲ用ヒ定款第二十二條ニ依リ選舉ハ毎年一月末日迄ニ本會ニ到達スル様投票スルモノトス
- 同第三十六條 支部ニ關スル規定竝ニ法人トノ提携ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

參 考 土 木 學 會 定 款 及 規 則 抜 萃 (現 行)

- 定款第 五 條 本會ハ必要ニ應シ地方ニ支部ヲ設クルコトヲ得
- 同 第十一條 會員タルモノトスル者ハ所定ノ入會申込ヲ爲シ常議員會ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス
- 同 第十三條 會員ニシテ一年以上會費ノ納付ヲ怠リタルトキハ常議員會ノ決議ヲ經テ其權利ノ行使ヲ停止スルコトヲ得
- 同 第十六條 入會ノ承認ヲ得タル會員ハ土木學會規則ノ定ムル處ニヨリ入會金ヲ納付シ會費ヲ負擔スルモノトス
- 規則第 四 條 特別員ハ土木ノ事業ニ關係アル自然人ノ團體又ハ法人ニシテ本會ノ目的ヲ贊助スル者トス
- 同 第十條 准員カ會員ニ又ハ學生員カ准員若クハ會員ニ資格ヲ變更セムトスルトキハ入會ノ手續ヲ準用ス
- 同 第十五條 會長副會長及常議員ノ選舉ハ本會所定ノ無記名連記式投票用紙ヲ用ヒ毎年一月末日迄ニ本會ニ到達スル様投票スルモノトス
- 同第三十六條 支部ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

會 告

發明獎勵費交付は（交付規則大正 6 年 10 月 13 日）
農商務省令第 28 號）に關し特許局長官
より下記の如く照會がありましたから、御希望の方は同局に付詳細
御問合せ下さい。

記

昭和 16 年 3 月 29 日

特 許 局 長 官

社團法人 土木學會 御 中

昭和十六年度發明獎勵費交付ニ關スル件

優秀ナル發明ヲ誘掖獎勵スル爲從來發明獎勵費ヲ交付シ來リ候處昭和十六年度ニ於テ
モ豫算ノ範圍内ニ於テ發明の試験費、研究費又ハ見本製作費ノ補助可相成筈ニ付貴學會
關係者ニ此ノ旨可然周知方御取計相煩度此段得貴意候也

追而右申請書ハ別紙様式ニ準ジ調製シ地方長官ヲ經由ノ上五月末日迄ニ差出ス様致
度此段申添候

第 27 卷第 5 號所載論說報告 “ドイツに於ける鋼橋應力及び振動測定並に熔接鋼橋のレントゲン試験觀察報告” 及び同號彙報 “橋梁測定法” の著者 正會員 新郷高一は 正會員 工學博士 新郷高一に就き訂正します。

連續アーチの計算 (第 27 卷第 4 號所載)

頁	行	誤	正
340	21	$Q2r-x$	$Q(2r-x)$
341	15	$\sin \gamma$	$\sin \gamma$
343	10	c^2	c_2
344	下より 5	不足積分	不定積分
	下より 4	2302585	2.302585
	下より 3	$\frac{1}{2\lambda(\lambda-\mu)(1+\lambda z)^2}$	$\left. \frac{1}{2\lambda(\lambda-\mu)(1+\lambda z)^2} \right\}$
	下より 2	$\frac{1}{2\lambda^2(\lambda-\mu)(1+\lambda z)^2}$	$\left. \frac{1}{2\lambda^2(\lambda-\mu)(1+\lambda z)^2} \right\}$
345	下より 11	N_{n1}	N_{n-1}
	下より 2	c_2	c_2
346	17	$\left\{ -c_2(1-\xi) + \frac{1}{2}c_2 \right\}$	$\left\{ -c_2(1-\xi) + \frac{1}{2}c_2 \right\}$
	17	$(1-2\xi+\xi^2)$	$(1-2\xi+\xi^2)$
347	15	$A_2 g \xi_2^2$	$A_2 g \xi_2^2$
348	下より 3	$2rE \tan \theta_0'$	$-2rE \tan \theta_0'$
349	12	L_{-1}	N_{-1}
	下より 6	$c_2 W_2$	$c_2 W_7$
350	14	$\kappa - c_2 \{c_1$	$\kappa = c_2 \{c_1$
351	22	$B_1 n_1 \xi_1^2$	$B_1 n_1 \xi_1^2$
352	4	$(A_2 - B_2)h$	$(A_2 - B_2)h_2$
	26	及 $v H_0'$	及 $v' H_0'$
353	17	$B_1 h_1 \xi_1^2$	$B_1 h_1 \xi_1^2$
355	下より 3	$c =$	$c_2 =$
358	2	—徑間の	—徑間に
	圖-22	$I_0(sp), L(sp), N_0(sp):$ $M_0(cr), M(cr)$	$I_0(sp), L_1(sp), N_0(sp):$ $M_0(cr), M_1(cr)$
359	圖-23	$Q_0 + R, Q_1 - Q:$	$Q_0 + R, Q_1, -Q_1:$
	下より 10	$r\psi_7$	$r\varphi_7$
361	下より 3	6435	64.35
362	27	-906	-9.06
364	15	$-\frac{c_2 c_7}{2(c_4 - c_7)} U_8$ で式を終り,	$-2c_2 A N_{-1}$ より行を改めて書く。
	18	$t_1 \xi_1^{-1}$	$t_1 \xi_1^{-1}$